

SUMITOMO

会社所在地



左から牛社長と鄧取締役

取扱い量の増加に伴い、手掛ける金属の種類も広がっている。非鉄スクラップ類は年間100トンほどを扱うという。福では現在、コンテナを用いたスクラップ販売の強化を検討しており、工場内でバンニングしたコンテナを、遠方

国を含む幅広い地域の需要家に供給する構えだ。すでに複数の方式を検討中で、2024年にバンニング作業のトリアル運用を実施する計画があるという。主力の鉄スクラップも伸ばしていく方針だ。グループが持つ集荷のポテンシャルは高いものがある。現在の工場は既にフル稼働に近い運用を行っているため、新拠点の開

福は全国で資源リサイクル事業を展開する錦旗産業グループ(本社大阪府泉大津市、斉浩社長)における関東初の本格事業所として、2012年に設立した比較的新しい事業者だ。設立から10年余りで鉄スクラップの年間扱量は12万トン、年商118億円規模の企業に急成長している。設立当初は現物のみの販売を続けていたが、近年はベトナムや台湾をはじめ、今後成長が期待される東南アジア諸国に向けた貿易事業にも力を入れている。

スクラップの扱いにおいては、錦旗産業グループとして

福では現在、シートパイルや覆工板、H形鋼、小形棒鋼といった鋼材類の扱いを強化しており、販売チャンネルの拡大を図っていく方針だ。設や人材の採用、設備の増強は常に模索している。多角的な事業を展開する上で注力していくのが、法令を守った適正なヤード運用だ。千葉県では2024年4月にスクラップなどの特定再生資源の屋外保管方法を規制する条例が全国の都道府県で初めて施行される。

福の工場床面は全面が敷鉄板で覆われている。また、火災対応の貯水槽を工場開設時から設置しているという。今後は油水分離槽なども適時設置しながら周辺環境に一段と配慮した工場とする。鄧氏は「当社は比較的新しい企業ではあるが、新興勢の中でも法令を守る適正ヤードの代表的な存在になりたい」と運用への意気込みを述べている。

利便性と港湾機能が強み

年商118億円企業に

国内の鉄リサイクル事業において2023年は法令を守り周辺環境に配慮した「適正ヤードの運用」が大きなテーマとなった。特に千葉県は千葉市や袖ケ浦市が独自のヤード規制条例を制定しており、2024年4月には都道府県単位で全国初となる金属ヤード等規制条例が施行するなど、自治体の取り組みも活発だ。今回は千葉県の中西部で金属スクラップ事業を展開する福(千葉県市原市、牛忠博社長)を訪ね、同社の事業や展望を聞いた。

入札物件の強化も進めており、それぞれの現場から解体品など様々なスクラップ母材が定期的に運び込まれてくる。およそ1万平方メートルを有する福の工場には切断圧1250トンの油圧シャットとガス切加工設備を設置しており、自社内で製鋼原料用のサイズに加工している。特に重量物の加工に強み

入札物件の強化も進めており、それぞれの現場から解体品など様々なスクラップ母材が定期的に運び込まれてくる。およそ1万平方メートルを有する福の工場には切断圧1250トンの油圧シャットとガス切加工設備を設置しており、自社内で製鋼原料用のサイズに加工している。特に重量物の加工に強み

入札物件の強化も進めており、それぞれの現場から解体品など様々なスクラップ母材が定期的に運び込まれてくる。およそ1万平方メートルを有する福の工場には切断圧1250トンの油圧シャットとガス切加工設備を設置しており、自社内で製鋼原料用のサイズに加工している。特に重量物の加工に強み

入札物件の強化も進めており、それぞれの現場から解体品など様々なスクラップ母材が定期的に運び込まれてくる。およそ1万平方メートルを有する福の工場には切断圧1250トンの油圧シャットとガス切加工設備を設置しており、自社内で製鋼原料用のサイズに加工している。特に重量物の加工に強み

入札物件の強化も進めており、それぞれの現場から解体品など様々なスクラップ母材が定期的に運び込まれてくる。およそ1万平方メートルを有する福の工場には切断圧1250トンの油圧シャットとガス切加工設備を設置しており、自社内で製鋼原料用のサイズに加工している。特に重量物の加工に強み

住友建機 リサイクル紀行

Vol.36 福(千葉県)

国内の鉄リサイクル事業において2023年は法令を守り周辺環境に配慮した「適正ヤードの運用」が大きなテーマとなった。特に千葉県は千葉市や袖ケ浦市が独自のヤード規制条例を制定しており、2024年4月には都道府県単位で全国初となる金属ヤード等規制条例が施行するなど、自治体の取り組みも活発だ。今回は千葉県の中西部で金属スクラップ事業を展開する福(千葉県市原市、牛忠博社長)を訪ね、同社の事業や展望を聞いた。



本社工場(千葉県市原市)

クアラインを通じて東京都心や横浜方面からのアクセスも良好だ。また、福の工場と袖ケ浦港は走行距離で片道およそ14km車でおよそ20分の距離にある。福ではこの利便性を活用して、海上出荷体制を強化してきた。現在は積載量3000トンの鉄スクラップ船積みならば2日間で実施することも多いという。スクラップ事業の一環として、近年力を入れているのがリユース(中古)鋼材の扱いだ。鄧氏は「脱炭素や環境保全の観点からも、リユース材を利用する意義は高まっている」と話す。

ペレータへのダメージ軽減において、プラスとなる相乗効果を発揮しているとみられる。故障の少なさも住友建機を支持する大きなポイントだ。万が一トラブルが生じた際にも迅速なアフターサービスへの信頼度が高い。福と住友建機のタッグは万全だ。



SH250-7MH

長時間操作で違いを実感

自らも重機を操作する牛社長は、機械性能、アフターサービス、営業対応のいずれにおいても住友建機のパフォーマンスを高く評価する。使用するSH250-7MHについては「長時間作業すると一目瞭然だ」と語る。

重量物の扱いが多い福の工場では、重機オペレータが受ける衝撃も大きく、作業上の僅かなストレスの蓄積が1日間で膨大なものになるという。1日の仕事を終えて取材に応じた牛社長はこの疲労の蓄積具合が、住友建機のマシンは圧倒的に少ないと指摘する。直感的な操作性やシート設計といった性能の組み合わせがオ



SH250-7MH(グラップル装着)

~住友建機がある風景~



SH250-7MH: 福の工場では主力の荷役重機として3機のSH250-7MHを導入している。油圧シャーへの投入やトレーラーへの積み込みといった各現場での働きぶりは定評があり、新機の投入も期待が高まっている。

担当: 大森 拓馬

製品の提案や修理、メンテナンスを通じて住友建機のマシンを購入して良かったと思って頂けるように日々精進致します。



住友建機販売株式会社 千葉支店
〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町236
Tel: 050-9001-8606 Fax: 043-422-5966